

## 1人1台タブレット端末を活用し、

## 自分なりの方法を選択して進める学習

中学校  
第3学年

（国語）聞き上手になろう  
質問で相手の思いに迫る

### こんな子どもたちの姿が生まれました！

- 自分のタブレットで対談例の動画を確認したことで、自分が繰り返し聞きたいと思った部分を選択したり、文字を見ながら聞き直したりすることを可能にし、自分の考えをより確かにすることができました。
- 文章だけでなく、聞き手と話し手を中心にした動画で対談の様子を自分自身でも繰り返し具体的な姿で確認しているため、対談に必要な基本的な態度である「相手や場に応じた適切な言葉遣い」で話すことや「誠実な態度で聞く」ことにつながりました。

### 二次元コードを用いて自分自身で繰り返し確認することによる効果

「相手の思いや考えを引き出す対談」を行うために必要なことを確認する一つの方法として、対談の様子が分かる動画を提示する。

クラス全体で動画を観るだけでなく、自分自身で確かめたい部分の動画を繰り返し確認できる場を設定する。

対談の具体的な様子とポイントとなることを対応させながら、自分自身で考えたり、仲間の意見を聞いたりすることを大切にする。

- ・クラス全体で動画を確認して、対談について共通でイメージをもつ。
- ・教科書に書かれている対談例を読んだり、動画を観たりして自分でよりよい方法を選びながら、大切にしたいポイント（注目したいところ）をまとめる。
- ・「質問の技」として、具体例をつかむとともに、聞き手の役割について理解を深める。



### 教師の指導のポイント

- 「対談」のイメージをクラス全体で共有するために、大きな画面のTV等に映し出す。その後、「質問で思いや考えを聞き出す」ための方法を具体例から、自分なりの方法で见つける時間を確保する。
- 対談例を文字だけでなく動画で確認することにより、目線や抑揚、間といった対談例を読んだだけでは分からないことを明確にする。コミュニケーションの基本的な姿勢となる「相手の立場に立って考え、誠実な態度で聞く」モデル提示にもなり、自立活動「6コミュニケーション（2）言語の受容と表出に関すること」の指導にもつながる。
- タブレットを使用して対談の練習の様子を録画しておき、学習を振り返る場面では、録画された映像を根拠にして、それぞれの立場から気づいたことや感じたことを伝え合う活動を位置付ける。

＜タブレットの使用にかかわって＞

◇発達段階や本人の得意なことを踏まえて、児童生徒自身がタブレットの「読み上げ機能」「音声入力」「辞書機能」を活用して使用できるようにすることも支援の一つとなる。